

深川 光耀

准教授

研 究 業 績

2023年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（共）	「つながる・ひろがる・動き出す 中京クーチャーセンター」 鈴木康久・嘉村賢州・谷口知弘 編『はじめてのファシリテーション：実践者が語る手法と事例』昭和堂、（190-193頁の執筆を担当）	2019.10
著書（共）	『つ・な・ご・う 震災の教訓を真野から発信する～震災20年を記念して～』阪神・淡路大震災20周年事業実行委員会、（74-78頁の執筆を担当）	2015.1
論文（単）	「まちづくりにおける私発協働のメカニズム -地域課題の解決に向けて-」立命館大学大学院社会学研究科博士論文	2023.6
論文（単）	「個人の問題意識を動機とするアクターの地域課題解決の担い手としての可能性 -京都市A学区におけるS食堂の取り組みの考察から-」『立命館大学産業社会論集』56巻3号、91-110頁	2020.12
論文（単）	「地域課題の解決を可能とする協議会型住民自治組織の組織特性と担い手の特徴 -久留米市安武校区のこども食堂を中心とした活動の考察から-」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第28号、21-34頁	2020.3
論文（単）	「子育て世代の特徴からみた地域活動への参加と担い手としての可能性 -真野まちづくりの継承を目的としたアンケート調査結果からの考察-」『産業社会論集』第53巻第1号、171-190頁	2017.6
論文（共）	「地域組織の活性化と新しい地域リーダー創出のための実践的研究 -『真野まちづくり』の継承と新展開を目指す取り組みを通して-」『住総研研究論文集』No.41 2014年版、（共同執筆者：乾亨、今野裕昭、西堀喜久夫、宮西悠司、清水光久、吉川健一郎）、109-120頁（114-117頁の執筆とアンケート調査を担当）	2015.3
その他（単）	「京都市まちづくりアドバイザー制度の紹介と評価」第2回TED日台民間交流国際シンポジウム in KYOTO	2016.4
その他（単）	「子育て世代が参加しやすい地域活動」、豊中市「地域自治フォーラム2018」基調講演	2018.9

その他（共）	「交流の場づくりによる商業者・市民等のネットワーク形成と育成に関わる実証研究」『2014年度「未来の京都創造研究事業」研究成果報告書』（共同執筆者：西村雅信、谷口知弘、行場吉成、多田羅景太）、25-63頁	2015. 5
その他（共）	「被災後の地域復興における市民参加」日米草の根交流プログラム、国際交流基金日米センター（東京都）・東西センター（米国ハワイ州）主催、（共同発表者：中村順子、中山久憲、宮定章、吉富志津代）	2016. 12
学会発表（単）	「中京マチビト Cafe の可能性と課題：〈私〉個人を起点としたまちづくり活動のムーブメント」 2021年度コミュニティ政策学会シンポジウム「まちづくりにおける「対話型市民参加」政策の見た夢と到達点：京都市2010年代の「カフェ型事業」の経験から」	2022. 3. 6
学会発表（共）	「商業施設の再生に資する託児サービスの事業継続に関する研究 -京都市洛西ニュータウンの商業施設における託児サービス事業の事例を通じて-」2016年度日本建築学会大会（九州）、（共同発表者：安枝英俊） ※『日本建築学会学術講演梗概集』、391-392頁	2016. 8. 26
学会発表（共）	「商業施設での託児サービスの実施による子育て支援の可能性(1)-託児サービスに対する利用者の評価とニーズに関する考察-」保育学会第69回大会、（共同発表者：深川望）	2016. 5. 7
学会発表（共）	「地域住民から構成された託児スタッフの参加動機と託児サービスの継続の可能性 -郊外住宅地におけるライフスタイルの再編に関する研究 その5-」2014年度日本建築学会大会（東海）、（共同発表者：安枝英俊） ※『日本建築学会学術講演梗概集』、199-200頁	2015. 9. 4
学会発表（共）	「地域ボランティアによる商業施設利用者への託児サービス実施の可能性-郊外住宅地におけるライフスタイルの再編に関する研究 その4-」2014年度日本建築学会大会（近畿）、（共同発表者：安枝英俊） ※『日本建築学会学術講演梗概集』、217-218頁	2014. 9. 14
学会発表（共）	「タウンセンターの付加価値向上に資する空間とサービス-郊外住宅地におけるライフスタイルの再編に関する研究 その3-」2014年度日本建築学会大会（近畿）、（共同発表者：安枝英俊） ※『日本建築学会学術講演梗概集』、215-216頁	2014. 9. 14
学会発表（共）	「地域ポータルサイトの開設初動期における情報収集プロセスに関する研究-洛西ニュータウン魅力発信装置『まちボタン』を事例として-」2012年度日本建築学会大会（東海）、（共	2012. 9. 12

	同発表者：安枝英俊)	
--	------------	--

※『日本建築学会学術講演梗概集』、225-226 頁